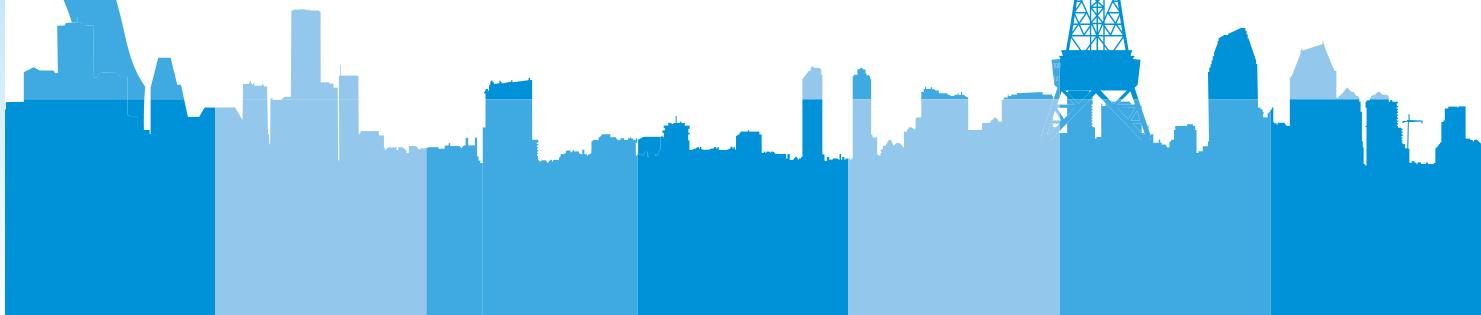


平成26年度中間期  
ミニディスクロージャー誌



# トップメッセージ

日頃より当行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

平成26年度中間期の日本経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減が徐々に和らいだものの、夏場の天候不順や、輸出の伸び悩みもあって、景気回復は力強さに欠けるものとなりました。また、北海道経済は、前年からの持ち直しの動きに一服感がみられました。駆け込み需要の反動は、飲食料品等では収束に向かったものの、耐久消費財や住宅着工においてはその影響が残りました。公共投資は、概ね前年並みの水準で推移しました。好調が続く観光関連は、外国人観光客の増加の勢いが持続しました。

このような経済環境のもと、当行の平成26年度中間期の経営成績は、経常利益が145億円と前年同期比49億円減少、中間純利益が97億円と前年同期比75億円減少いたしました。

また、平成26年9月末の資金量（預金・譲渡性預金）残高は7兆3,138億円、貸出金残高は5兆4,188億円となり、そのうち北海道内向け貸出は4兆8,633億円と、貸出金全体の約9割を占めてお

ります。

当行は、高度・多様化するお客さまのニーズに適切かつ迅速に対応し、一層の収益機会の拡大を図るべく、積極的な営業展開を行っております。

地域経済活性化への取り組みとしては、北海道の強みを活かした「食と観光」などへの支援を通じて「地域密着型金融」を積極的に推進いたしました。平成27年度の北海道新幹線の開業を見据え、青函地域の活性化・地域交流の活発化を目的に、北海道、青森県、株式会社青森銀行等と連携して「青函個別相談会」、「商品ブラッシュアップ個別相談会」を開催したほか、融資によらない新たなファイナンス手法を提供することを目的に、官民連携ファンドである「青函活性化ファンド」を設立し出資を行う等、北海道と青森県の両地域がともに発展していくための取り組みを強化しております。さらに、消費者と生産者を結びつける取り組みとして「大通BISSEマルシェ2014」を開催したほか、食の商談会である「インフォメーションバザール in Tokyo 2014」を開催する等、道産品のブランド力向上とマーケット

の拡大を後押ししております。

個人のお客さまに向けては、お客さまの多様なニーズにお応えできるよう、平成26年4月にカードローンを、同年9月にマイカーローンをリニューアルする等、商品性及び利便性の向上に努めました。

法人のお客さまに向けては、平成26年6月に日本政策金融公庫と創業・起業分野での「業務連携・協力に関する覚書」を締結し、創業・起業分野の資金ニーズへの対応を強化しました。加えて、平成26年7月に公益財団法人大田区産業振興協会と連携協定を締結し、北海道・東京都大田区の両地域の産業振興及び地域経済の活性化を図っております。さらに、ミュージックセキュリティーズ株式会社と業務提携を行い、少額投資による新たな資金調達の仕組みをお客さまに紹介し、事業の成長を後押しする取り組みを強化しました。このほか、経営に携わる女性同士の交流や情報交換の場を通じた女性ネットワーク構築の一助と企業成長のサポートを目的として、平成26年7月に第1回「北洋女性ビジネスセミナー」を開催いたしました。

当行は平成26年度から、新中期経営計画「『挑戦』～北海道の新しい価値を創造し、ともに成長するステージへ～」をスタートさせました。経営理念である「北海道の洋々たる発展の礎となる銀行」として、北海道経済を支えることを責務と考え、さらなる地域の成長と新しい価値の創造を目指してまいりますので、今後とも、一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社 北洋銀行

取締役頭取 石井 純二



## 損益の状況

平成26年度中間期の損益につきましては、前年同期に計上された投資信託の解約益等が計上されなかったこと、貸出金の回わり低下などにより預貸金収支が減少したことから、資金利益が前年同期比56億円減少し、コア業務粗利益は468億円(前年同期比△58億円)となりました。

経費(除く臨時処理分)は人件費、税金の増加により前年同期比6億円増加し、コア業務純益は84億円(前年同期比△65億円)となりました。

国債等の売却益による有価証券関係損益が減少し、経常利益は145億円(前年同期比△49億円)となりました。なお、景況の持ち直しに加え、経営改善支援の取り組みの推進により、貸倒償却引当費用が前年同期比56億円減少したことなどから、経常利益は当初計画対比では、55億円の増加となりました。

この結果、中間純利益は97億円(前年同期比△75億円)となりました。

連結の経常利益は、156億円(前年同期比△50億円)、中間純利益は100億円(前年同期比△75億円)となりました。

## (単体)

(単位 億円・%)

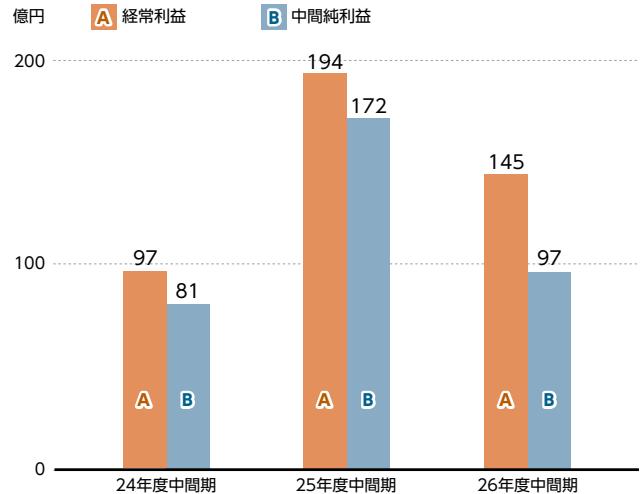
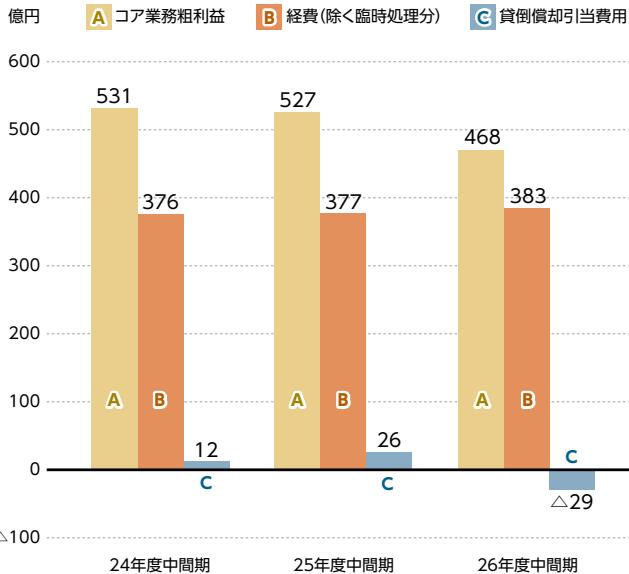
	25年度中間期	26年度中間期	前年同期比
経常収益	708	<b>615</b>	△93
コア業務粗利益	527	<b>468</b>	△58
資金利益	443	<b>387</b>	△56
役務取引等利益	77	<b>75</b>	△1
その他業務利益	6	<b>5</b>	△0
経費(除く臨時処理分) (コアOHR)	377 (71.5)	<b>383</b> <b>(81.9)</b>	6 (10.4)
コア業務純益	150	<b>84</b>	△65
貸倒償却引当費用	26	<b>△29</b>	△56
有価証券関係損益	74	<b>18</b>	△56
その他臨時損益	△3	<b>12</b>	15
経常利益	194	<b>145</b>	△49
中間純利益	172	<b>97</b>	△75

※その他業務利益には国債等債券関係損益を含んでおりません。  
その他臨時損益には金銭の信託運用損益を含んでおります。

## (連結)

(単位 億円)

	25年度中間期	26年度中間期	前年同期比
連結コア粗利益	553	<b>492</b>	△61
営業経費	396	<b>392</b>	△4
連結経常利益	206	<b>156</b>	△50
連結中間純利益	175	<b>100</b>	△75



## 自己資本比率 (国内基準) (速報値)

自己資本比率は、平成26年3月期より新基準(バーゼルⅢ)で算出しております。新基準による自己資本比率は10.27%となり、公的資金(簿価ベースで1,000億円)を完済後も10%以上を維持しております。また、連結自己資本比率は10.55%となりました。

### 自己資本比率

自己資本÷リスクアセット(損失率勘案後の資産)等×100  
金融機関の体力、健全性を示す指標。

当行のように国内のみに営業拠点を有する金融機関は4%以上の確保を求められる。

### (単体)

(単位%)

	26.9末
自己資本比率	10.27

※バーゼルⅢベース

### 〈ご参考〉

(単位%)

	25.9末
自己資本比率	10.83
Tier I比率	8.01

※バーゼルⅡベース

## 資金量、貸出金

平成26年9月末の資金量は、法人・個人・公金の各預金が増加し、7兆3,138億円(前年同期比+1,174億円・+1.6%)となりました。預かり資産は4,407億円となり、資金量との合計額は7兆7,545億円(前年同期比+913億円・+1.1%)となりました。

平成26年9月末の貸出金は、個人向け貸出が増加したものの、法人向け貸出の減少を主因として、5兆4,188億円(前年同期比△1,469億円・△2.6%)となりました。

(単体)

(単位 億円・%)

	25.9末	26.9末	前年同期比(年率)	
資金量	71,964	<b>73,138</b>	1,174	(1.6)
預かり資産	4,667	<b>4,407</b>	△260	(△5.5)
公共債保護預かり	3,193	<b>2,650</b>	△542	(△17.0)
投資信託	1,474	<b>1,757</b>	282	(19.1)
計	76,631	<b>77,545</b>	913	(1.1)
個人年金保険等	3,810	<b>4,456</b>	645	(16.9)

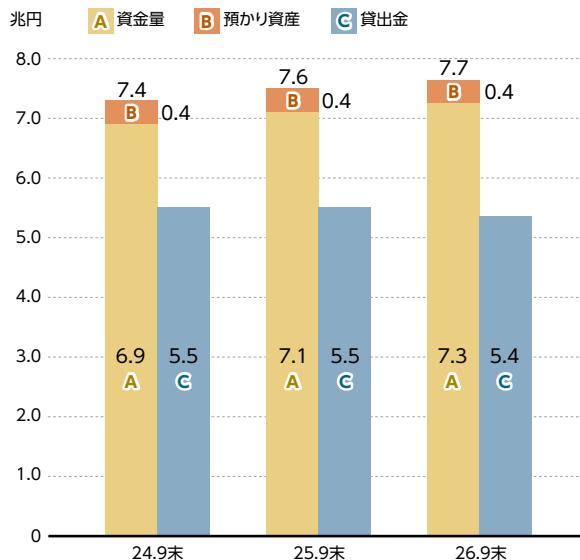
個人向けローン	16,081	<b>16,209</b>	127	(0.7)
中小企業等貸出金	34,845	<b>33,403</b>	△1,441	(△4.1)
貸出金	55,658	<b>54,188</b>	△1,469	(△2.6)
うち北海道内向け	50,216	<b>48,633</b>	△1,582	(△3.1)

資金量 = 預金 + 譲渡性預金

預かり資産 = 公共債保護預かり + 投資信託

中小企業等 = 資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円)以下の会社又は常用する従業員が300人(ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人)以下の企業等

個人年金保険等は販売累計額を表示しております。



## 有価証券評価損益

平成26年9月末の有価証券評価損益は、市況の回復から、721億円の評価益(前期末比+125億円)となりました。

(単体)

(単位 億円)

	26.3末	26.9末	前期末比
有価証券評価損益	596	<b>721</b>	125
株式	394	<b>505</b>	111
債券	189	<b>206</b>	17
その他	12	<b>9</b>	△2

〈参考〉

日経平均株価(円)	14,827	<b>16,173</b>	1,346
新発10年国債利回(%)	0.640	<b>0.525</b>	△0.115

## 金融再生法開示債権

平成26年9月末の金融再生法開示債権は、大口開示債権の新規発生が少なかったこと、経営改善支援の取り組みの推進に伴うランクアップ等により、1,386億円(前年同期比△148億円)となりました。

開示債権比率は実質1.82%(部分直接償却を実施した場合)となりました。

(単体)

(単位 億円・%)

	25.9末	26.9末	前年同期比
破産更生等債権	616	<b>532</b>	△84
危険債権	658	<b>627</b>	△31
要管理債権	259	<b>226</b>	△33
金融再生法開示債権 (開示債権比率)	1,535 (2.69)	<b>1,386</b> <b>(2.49)</b>	△148 (△0.20)
※部分直接償却後 (開示債権比率)	1,108 (1.95)	<b>1,010</b> <b>(1.82)</b>	△97 (△0.13)

※当行は部分直接償却未実施ですが、参考として部分直接償却を実施した場合の計数を記載しております。

### 破産更生債権及びこれらに準ずる債権(破産更生等債権)

破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権。

### 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権。

### 要管理債権

3ヵ月以上延滞債権および貸出条件緩和債権。

### 開示債権比率

総与信に占める金融再生法開示債権の構成比。

### 部分直接償却

破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権について担保等による回収が不可能な額(Ⅴ分類債権額)に対し、個別貸倒引当金の計上ではなく、直接償却すること。

## 中期経営計画『挑戦』

～北海道の新しい価値を創造し、ともに成長するステージへ～(平成26年度～28年度)

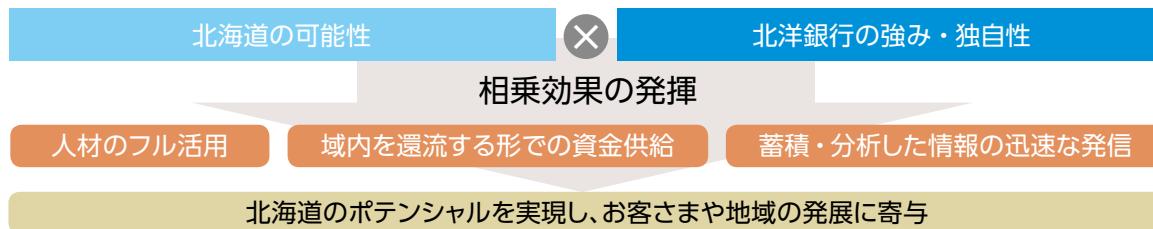
### ●中長期ビジョン

## 北海道の新たな道標と価値の創造を担う銀行へ

お客さま満足・地域貢献・従業員満足で地銀No.1を目指す

### ●中長期ビジョンの実現に向けた戦略の方向性

「北海道の可能性」と「北洋銀行の強み・独自性」の相乗効果により、地域経済の活性化とデフレ脱却に向け『挑戦』し、北海道の新たな道標と価値の創造を目指す。



### ●基本方針と経営目標

#### 4つの基本方針

- お客さま・地域・株主・従業員のための企業価値向上
- 組織・システム・ネットワーク・プロセスの最適化
- PDCA サイクルの徹底による自己革新的経営
- コンプライアンス経営の徹底と CSR 経営の実践

#### 6つの経営目標

- お客さまとのリレーション拡大による収益力の向上
- 地域の成長支援
- 人材の活性化
- ローコスト体質の確立
- 経営基盤の強化

●株主価値の向上

### ●計数計画

単体	平成25年度	平成28年度計画
コア業務純益	255億円※	260億円
経常利益	178億円※	230億円
当期純利益	122億円※	150億円
自己資本比率 (パーゼルⅢベース)	10.0% (SAベース)	12%程度 (FIRBベース試算)
預金平残(NCD含む)	7兆1,058億円	7兆2,800億円
貸出金平残	5兆4,236億円	5兆5,500億円

連結	平成25年度	平成28年度計画
経常利益	209億円※	240億円
当期純利益	133億円※	155億円

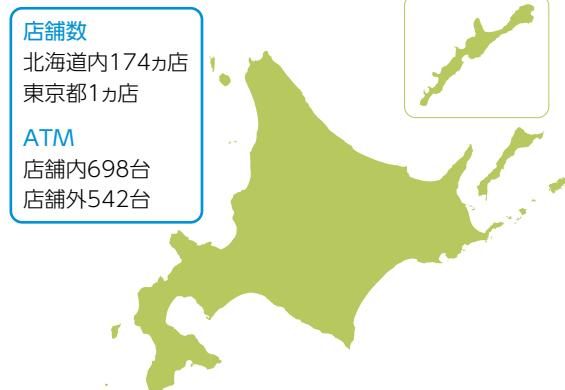
※平成25年度利益については、特殊要因として有価証券の売却・解約益等772億円のほか、法人税等調整額の増加等が約36億円発生しており、これを控除しております。



当行は、経営理念である「北海道の洋々たる発展の礎となる銀行」として、北海道経済を支えていくとともに、地域の皆さまに愛され親しまれる、身近で便利な「暮らしのお役に立つ銀行」をめざしています。

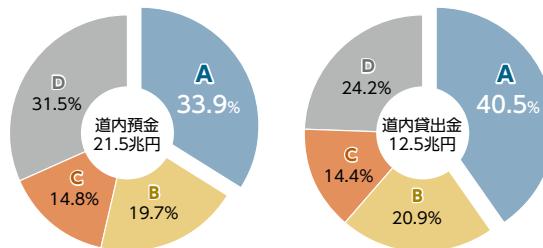
## お客さまとの強固な接点

### ●充実した店舗網



※北海道内の店舗数は振込専用支店1カ店を含む。(平成26年9月末現在)

### ●預金・貸出金～北海道内シェア



(平成26年3月末)

**A** 北洋銀行 **B** 地区競合行 **C** その他銀行 **D** 信用金庫

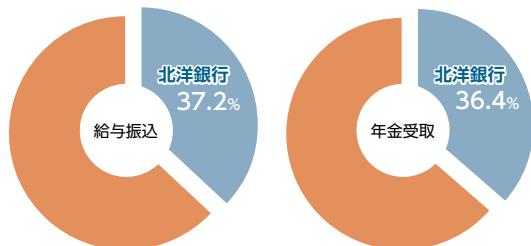
※北海道に本支店のある国内銀行(ゆうちょ銀行、整理回収機構除く)および信用金庫の残高に基づくシェア。預金は譲渡性預金を含む。

(出所) 日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金」、信金中金地域・中小企業研究所「全国信用金庫概況」、各行ディスクロージャー誌

### ●個人お取引～北海道内シェア

給与振込指定…約80万口座

年金受取指定…50万口座以上



(出所) 経済産業省「経済センサス(平成24年)」総務省「住民基本台帳人口(平成26年)」より当行推計

### ●法人お取引～地域銀行別メインバンク取引社数

順位	銀行名	社数
1位	北洋銀行	24,701
2位	千葉銀行	20,502
3位	西日本シティ銀行	19,681
4位	福岡銀行	19,032
5位	静岡銀行	16,779

(出所) 帝国データバンク「全国メインバンク調査(平成25年)」

## 地域密着型金融の推進

当行は、地域密着型金融の推進を通じて北海道経済の活性化に貢献すべく、様々な施策に取り組んでいます。

### 観光

北海道への外国人観光客が平成25年度に初めて100万人を超えるなど、観光は北海道が国内外において優位性を持つ分野です。地域経済への波及効果も大きいことから、道内各地域の自治体および観光関連団体等と連携・協力しながら様々な取り組みを行っています。平成26年9月に東京で開催したインフォメーションバザールにおいて、道内観光関連団体等と首都圏の観光エージェントとのビジネスマッチングを実施しております。

また、平成26年10月にタイから旅行社・雑誌社等を招聘し、道東を中心とした道内各地のスイーツや魅力的な観光資源を視察する「北海道スイーツ・ロード招聘事業」を実施しました。昨年度は道南・道央を中心とした招聘事業を実施しており、旅行商品化や雑誌掲載を通じて、外国人観光客の誘致促進を図っています。



北海道スイーツ・ロード招聘事業

### 青函活性化

平成27年度の北海道新幹線開業に向けて、青函を機軸とした北海道・青森両地域において、食と観光を絡めた地域の面的再生支援に取り組んでいます。また、道南の沿線自治体と連携し、新駅名の周知や札幌延伸の機運醸成を推進するイベントなどを開催しています。平成26年10月には、株式会社JTB北海道との連携協定事業の一環として、2本のモニターツアーを実施しました。道内各地域の新しい魅力発掘を行い、新幹線開業による交流人口の拡大が全道へ広く波及することをめざしています。



五島軒「函館ロール」



北海道新幹線のPRイベント

さらに、平成26年5月に株式会社青森銀行、株式会社北洋キャピタル、REVICキャピタル株式会社と官民連携ファンドである「青函活性化ファンド」を設立しました。地域の活性化や発展に資する企業、事業を対象として成長資金の供給や継続的な経営支援を行うなど、青函地域のお客さまに対し、融資によらない新たなファイナンス手法を提供しています。第1号案件として函館の老舗・株式会社五島軒に対し投資を行い、同社は道南・七飯町産と青森産のりんごを使用したロールケーキの販路拡大のための設備投資に充当しました。



## フードビジネス

北海道の基幹産業である農業・食品関連産業の支援に向け、生産・加工・販売の各フェーズで最適なコンサルティング機能を発揮し、フードビジネスの育成・強化に取り組んでいます。具体的には、東京や大阪で毎年開催している食の商談会「インフォメーションバザール」や、「商品ブラッシュアップ個別相談会・セールスサポート・パッケージ支援・海外支援」を主軸とした「食のプロダクトデザイン」を展開するなど、「道産食品の商品力強化」と「強固な商流構築」を支援しています。



インフォメーションバザール



【北海道育ち ひこま豚】

また、農林漁業者が2次・3次産業と連携することで新たな価値を創出する、いわゆる6次産業化を支援する「北洋6次産業化応援ファンド」の第2号案件として、平成26年5月に株式会社ひこま豚に出資しました。さらに、平成26年10月には、農業生産法人に直接出資ができる道内初のファンドとして、日本政策金融公庫と共同で「北洋農業応援ファンド」を設立しています。このような取り組みを通じ、農林漁業者をはじめとする食品関連事業者の幅広いニーズに応じたサポートを行っています。

## ものづくり産業

北海道は製造業のウェイトが他地域と比較して小さいため、道内経済活性化のためには、ものづくり企業を中心に、従来の枠組みにとらわれない手法を用いて持続的にサポートしていくことが重要です。当行は、平成26年7月に全国屈指の各種先端技術を有する東京都大田区の企業との連携を図るため、公益財団法人大田区産業振興協会と連携協定を締結しており、連携事業の一環として、当行が毎年主催する



ものづくりテクノフェア

「北洋銀行ものづくりテクノフェア」に大田区の企業8社が出展しました。

技術・商品・ビジネスモデル等に特長や優位性があり、成長が見込まれる道内企業のイノベーション活動を株式引受により支援する「北洋イノベーションファンド」は、平成26年9月末までに累計19件の出資を行っています。また、道内中小企業の新技術・新製品の研究開発に対する助成を行う「北洋銀行ドリーム基金」は、平成25年度の助成先を10先に拡大し助成金を贈呈しました。さらに、国から認定を受けた経営革新支援機関として、各種補助金の活用をサポートしています。



ドリーム基金贈呈式

## 医療・福祉

高齢化社会の進行に伴い、病院や福祉・介護施設の新たな設備投資や既存施設の建替・拡張などの需要が高まっています。当行では、医療・福祉に携わるお客さまの多様なニーズにお応えするため、法人部内に「医療福祉サービス課」を新設し、専門性の高い情報の提供や開業支援などのサポートをきめ細かく行っています。

## 事業承継・M&A

経営者の高齢化や後継者不在などを背景とする事業承継やM&Aなど専門性の高いご相談にお応えするため、法人部内に「コーポレート・ビジネス課」を新設しました。高度な専門性とノウハウを有する監査法人等の外部機関と連携しながら、事業承継支援に積極的に取り組んでいます。

## 海外ネットワーク

お客さまの海外ビジネス展開をサポートするため、中国、ASEAN、ロシアのエリアごとに担当を設置しているほか、海外駐在員事務所を3カ所開設しています。また、外部機関と連携し、海外進出セミナーの開催や現地展示会等への参加サポートなど、幅広い支援を行っています。



中国での合同企業交流会(青島市)



地域	提携金融機関
中国	大連銀行
ASEAN アジア	インドステイト銀行(インド) バンコック銀行(タイ) バンクネガラインドネシア(インドネシア) メトロポリタン銀行(フィリピン) ベトナム銀行(ベトナム)



## 商品・サービスの拡充

### 各種ローン商品のリニューアル

お客さまの多様なニーズにお応えするため、各種ローン商品のリニューアルを行いました。ご利用限度額やお借入期間の変更などにより、利便性の高い商品として生まれ変わっています。



※商品の詳細については、北洋銀行店頭またはホームページにてご確認ください。

### 資産形成

当行では、お客さまの資産形成を積極的にお手伝いしています。投資信託や保険商品等の品揃えを充実させるとともに、資産運用や保険に詳しいファイナンシャルプランナーやコンサルティングの専任者が、お客さまのライフステージにあわせた最適なお提案を行っています。また、平成26年1月からスタートしたNISA(少額投資非課税制度)に対応した非課税口座の開設も受け付けています。さらに、外部講師を招いた資産運用に関するセミナーを随時開催しています。

当行は、次世代へ資産を「のこす」ことも様々なかたちでサポートしています。財産・資産承継プランニング、遺言信託、遺産整理業務・相続手続トータルサービスについて、信託銀行・信託会社4社と提携し、お客さまに相続関連業務のご紹介を行っているほか、「教育資金の一括贈与に係る贈与税の非課税措置」に対応した「教育資金贈与専用預金 エール」をお取り扱いしています。



北洋フィナンシャルプラザ

### 当行ホームページリニューアル

平成26年7月に当行ホームページを全面リニューアルしました。「使いやすく、よりわかりやすい」ホームページを目指し、操作機能性・ユーザビリティの向上や商品・サービス情報の充実を図りました。店舗・ATM検索は、道内専用地図を利用した検索・ルート検索機能を新たに実装したほか、スマートフォンではGPS(全地球測位システム)を利用した現在地からの検索も可能です。

## 当行のCSR(企業の社会的責任)活動

当行は、CSRとは経済的な発展のみを追求するのではなく、株主・お客さま・地域社会・環境など当行を支えていただいている全てのステークホルダー(利害関係者)の持続的発展に資する行動を全行で実践していくことと考えています。コーポレート・ガバナンス(企業統治)やコンプライアンス(法令遵守)、リスク管理等のマネジメント体制をベースとし、幅広いステークホルダーに対し、地域金融機関として求められる役割・機能を踏まえ、様々な施策に取り組んでいます。平成26年度からは、重点取組テーマを「環境保全」「医療福祉」「教育文化」と定め、CSR活動の一層の拡充を図っています。



## 環境保全

北海道は自然環境の恩恵を大きく受けており、環境保全は重要なテーマです。当行は、地球温暖化防止に向けた二酸化炭素など温暖化ガス削減をはじめとし、様々な取り組みを行っています。

### ●ビジネスを通じた取り組み

環境関連に特化した「環境ビジネス支援ファンド」、環境に配慮した取り組みを行っている企業に対し金利優遇を行う私募債「北洋エコボンド」等を取り扱っています。

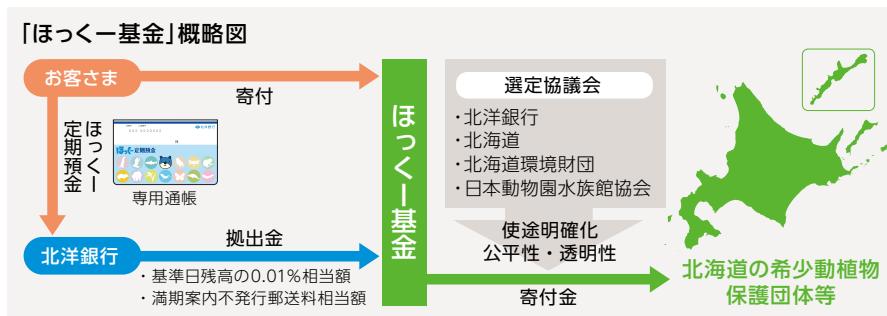
### ●ほっこー基金とほっこー定期預金

北海道の生物の「多様性保護」(生息域を含めた生物保護)を目的とした「ほっこー基金」を設立しています。官民連携からなる「ほっこー基金選定協議会」において北海道の希少動植物保護に取り組む団

体などを選考し、これまでに延べ19先に寄付を行いました。

「ほっこー基金」への取り組みとして「ほっこー定期預金」を全店にてお取り扱いしています。当行は、お客さまから預金いただいた金額の0.01%相当額と、満期案内不発行により削減できる郵送料相当額を「ほっこー基金」に拠出します。お客さまは「環境配慮型通帳」を使用する「ほっこー定期預金」を通じて、間接的に基金に拠出・参加でき、北海道の生物多様性保護に貢献していただくことができます。

「ほっこー基金」では専用寄付口座を設け、協力金形式の募金受付も行っています。各営業店窓口で、お振込手数料無料で受け付けており、皆さまのご協力を募っています。



平成25年度寄付先
アポイ岳ファンクラブ
NPO法人えんの森
釧路市動物園
一般社団法人湿原研究所
北海道ウチダザリガニ防除ネットワーク
北海道生物多様性保全活動連携支援センター(HoBiCC)



## 医療福祉

北海道の地方においては、医師不足など重要な社会インフラのひとつである「医療福祉」が課題となっています。当行は、当グループが有する金融機能やネットワークを活用しながら、「医療福祉」インフラの維持・向上に積極的に取り組んでいます。

### ●道内医科大学との連携

道内3医科大学と包括連携協定を締結し、「市民医療セミナー」の開催や医療関係のラジオ番組への協賛等、地域医療の支援を行っています。今年度の「市民医療セミナー」は各医療分野の専門家を講師に招き、計8回の開催を予定しています。



市民医療セミナー

## 教育文化

### ●金融教育

北海道の未来を担う子どもたちのために、出張授業や本支店見学、大学での講座等の各種金融教育を実施しています。平成25年度は、小学生から大学生



金融教育(北海道教育大学札幌校)

まで653名の参加があり、お金の大切さや仕組み、金融機関の役割等を学んでもらいました。また、職場体験学習などを受け入れ、道内の学生に実社会を経験する機会を提供しています。

### ●毎日新聞社主催 中学生作文コンクール

北海道の未来を担う中学生の育成を目的として、作文コンクールに協賛しています。平成25年度は2万点を超える応募があり、札幌・函館・室蘭・旭川・釧路で表彰式を行いました。

## CSRレポート

当行のCSR活動をより詳しくご紹介している「CSRレポート2014」を発行しています。また、当行ホームページにもCSRへの取り組みを掲載しています。



### ●北洋銀行presentsクラシックコンサート

札幌交響楽団によるクラシックコンサートを年2回開催しています。札幌・深川・室蘭で開催したほか、今年度は帯広で開催するなど、これまでに延べ7,500名のお客さまを無料でご招待し、名曲の数々をお楽しみいただきました。



北洋銀行presentsクラシックコンサート(札幌)

第159期 中間貸借対照表 (平成26年9月30日現在)

(単位 百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	556,623	預金	7,040,549
コールローン	3,498	譲渡性預金	273,269
買入金銭債権	10,960	借入金	72,951
商品有価証券	5,283	外国為替	15
有価証券	1,677,996	その他負債	39,748
貸出金	5,418,815	賞与引当金	1,609
外国為替	2,512	退職給付引当金	1,413
その他資産	44,901	睡眠預金払戻損失引当金	1,651
有形固定資産	91,247	ポイント引当金	398
無形固定資産	12,787	再評価に係る繰延税金負債	3,495
繰延税金資産	1,958	支払承諾	60,711
支払承諾見返	60,711	<b>負債の部合計</b>	<b>7,495,814</b>
貸倒引当金	△58,663	(純資産の部)	
		資本金	121,101
		資本剰余金	50,001
		資本準備金	50,001
		利益剰余金	107,776
		利益準備金	1,949
		その他利益剰余金	105,826
		自己株式	△129
		株主資本合計	278,749
		その他有価証券評価差額金	48,390
		繰延ヘッジ損益	△42
		土地再評価差額金	5,721
		評価・換算差額等合計	54,069
		<b>純資産の部合計</b>	<b>332,818</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>7,828,632</b>	<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>7,828,632</b>

第159期 中間損益計算書

(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)

(単位 百万円)

科目	金額
<b>経常収益</b>	<b>61,520</b>
資金運用収益	40,833
(うち貸出金利息)	(35,125)
(うち有価証券利息配当金)	(5,361)
役務取引等収益	13,523
その他業務収益	2,527
その他経常収益	4,636
<b>経常費用</b>	<b>47,003</b>
資金調達費用	2,101
(うち預金利息)	(876)
役務取引等費用	5,927
その他業務費用	102
営業経費	38,312
その他経常費用	559
<b>経常利益</b>	<b>14,517</b>
<b>特別利益</b>	<b>13</b>
<b>特別損失</b>	<b>363</b>
<b>税引前中間純利益</b>	<b>14,167</b>
法人税、住民税及び事業税	511
法人税等調整額	3,931
<b>法人税等合計</b>	<b>4,442</b>
<b>中間純利益</b>	<b>9,724</b>



第159期 中間連結貸借対照表 (平成26年9月30日現在)

(単位 百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	556,740	預金	7,031,978
コールローン及び買入手形	3,498	譲渡性預金	259,909
買入金銭債権	10,960	借入金	83,809
商品有価証券	5,283	外国為替	15
有価証券	1,678,122	その他負債	58,350
貸出金	5,368,876	賞与引当金	1,813
外国為替	2,512	退職給付に係る負債	1,532
リース債権及びリース投資資産	44,732	睡眠預金払戻損失引当金	1,651
その他資産	75,401	ポイント引当金	447
有形固定資産	92,063	繰延税金負債	307
無形固定資産	13,088	再評価に係る繰延税金負債	3,495
繰延税金資産	2,615	支払承諾	60,711
支払承諾見返	60,711	<b>負債の部合計</b>	<b>7,504,022</b>
貸倒引当金	△65,411	(純資産の部)	
		資本金	121,101
		資本剰余金	72,328
		利益剰余金	92,984
		自己株式	△0
		株主資本合計	286,413
		その他有価証券評価差額金	48,998
		繰延ヘッジ損益	△42
		土地再評価差額金	5,721
		退職給付に係る調整累計額	54
		その他の包括利益累計額合計	54,732
		少数株主持分	4,027
		<b>純資産の部合計</b>	<b>345,173</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>7,849,196</b>	<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>7,849,196</b>

第159期 中間連結損益計算書

(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)

(単位 百万円)

科目	金額
<b>経常収益</b>	<b>75,822</b>
資金運用収益	40,632
(うち貸出金利息)	(35,055)
(うち有価証券利息配当金)	(5,230)
役員取引等収益	14,793
その他業務収益	15,714
その他経常収益	4,680
<b>経常費用</b>	<b>60,196</b>
資金調達費用	2,129
(うち預金利息)	(876)
役員取引等費用	5,376
その他業務費用	12,487
営業経費	39,235
その他経常費用	967
<b>経常利益</b>	<b>15,625</b>
<b>特別利益</b>	<b>13</b>
<b>特別損失</b>	<b>363</b>
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>15,275</b>
法人税、住民税及び事業税	955
法人税等調整額	3,986
<b>法人税等合計</b>	<b>4,941</b>
<b>少数株主損益調整前中間純利益</b>	<b>10,333</b>
<b>少数株主利益</b>	<b>263</b>
<b>中間純利益</b>	<b>10,070</b>

## 札幌北洋グループ経営理念

- お取引先に良質なサービスを提供し、お客様と共に発展する。
- 企業価値の増大を図り、株主と市場から高い信認を得る。
- 職員がその能力を十分に発揮できる働きがいのある職場をつくる。

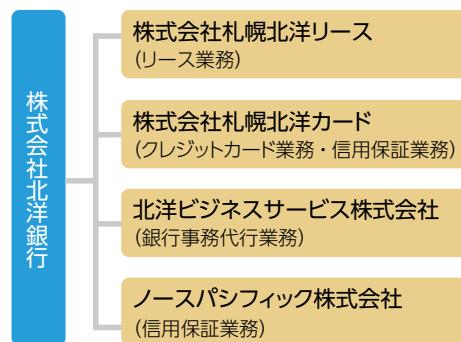
## 北洋銀行経営理念

- 北海道の洋々たる発展の礎となる銀行

## 当行の概要 (平成26年9月30日現在)

設立年月日	大正6年8月20日
本店所在地	札幌市中央区大通西3丁目7番地
資本金	1,211億円
店舗数	175店
従業員数	3,365名
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 札幌証券取引所
証券コード	8524

## グループ会社一覧



## 役員一覧

取締役会長	横内 龍三	取締役	豊岡 孝章	常勤監査役(社外)	嵐田 昇
取締役頭取	石井 純二	取締役	近江 秀彦	常勤監査役	下村 幸弘
取締役副頭取	柴田 龍	取締役	東原 幸生	常勤監査役	曾我 浩司
常務取締役	関川 峰希	取締役	長野 実	監査役(社外)	武藤 仁一
常務取締役	中村 栄作	取締役	安田 光春	監査役(社外)	山田 範保
常務取締役	荒井 覚	取締役(社外)	馬杉 榮一		
常務取締役	藤井 文世	取締役(社外)	山崎 駿		



## 株式の状況 (平成26年9月30日現在)

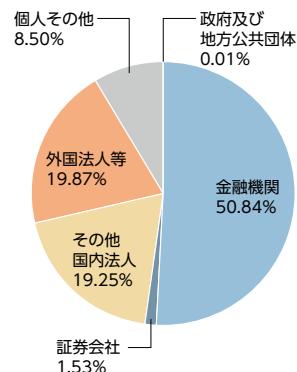
株主数	普通株式	10,807名
発行済株式の総数	普通株式	399,060,179株

### 大株主

株主名	所有株式数	所有株式数の割合
日本生命保険相互会社	30,954,500株	7.75%
明治安田生命保険相互会社	30,954,000	7.75
北海道電力株式会社	23,147,000	5.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	18,031,400	4.51
ステート ストリートバンク アンド トラスト カンパニー 505223	16,133,356	4.04
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	15,866,480	3.97
第一生命保険株式会社	13,412,000	3.36
三井生命保険株式会社	11,132,000	2.78
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	10,069,700	2.52
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	8,257,500	2.06

(注)「所有株式数の割合」は小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

### 所有者別株式分布状況



(注)自己株式は「個人その他」に含めております。

## 株式事務のお取り扱いについて

お手順の区分		証券会社等に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主名簿記載事項の変更 (商号、氏名、住所など)</li> <li>● 単元未満株式の買取・買増のご請求</li> <li>● 配当金受取口座のご指定</li> </ul>	ご連絡先	お取引の証券会社等にお問い合わせください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 ☎0120-288-324 (フリーダイヤル)</li> </ul>
	窓口		<ul style="list-style-type: none"> <li>● みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店</li> <li>● みずほ証券株式会社 本店、全国各支店及び営業所</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 未払配当金の支払等 (株式会社札幌北洋ホールディングスに係る未払配当金を含みます)</li> </ul>	お問合せ先	<ul style="list-style-type: none"> <li>● みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 ☎0120-288-324 (フリーダイヤル)</li> </ul>	



FSC®認証紙製品を使用する事により責任ある森林管理を支援しています。



この印刷物は環境にやさしい「植物油インキ」を使用しています。



FTSE4Good



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



株式会社 北洋銀行 経営企画部

〒060-8661

札幌市中央区大通西3丁目7番地

電話 011-261-1311 (代表)

<http://www.hokuyobank.co.jp>

